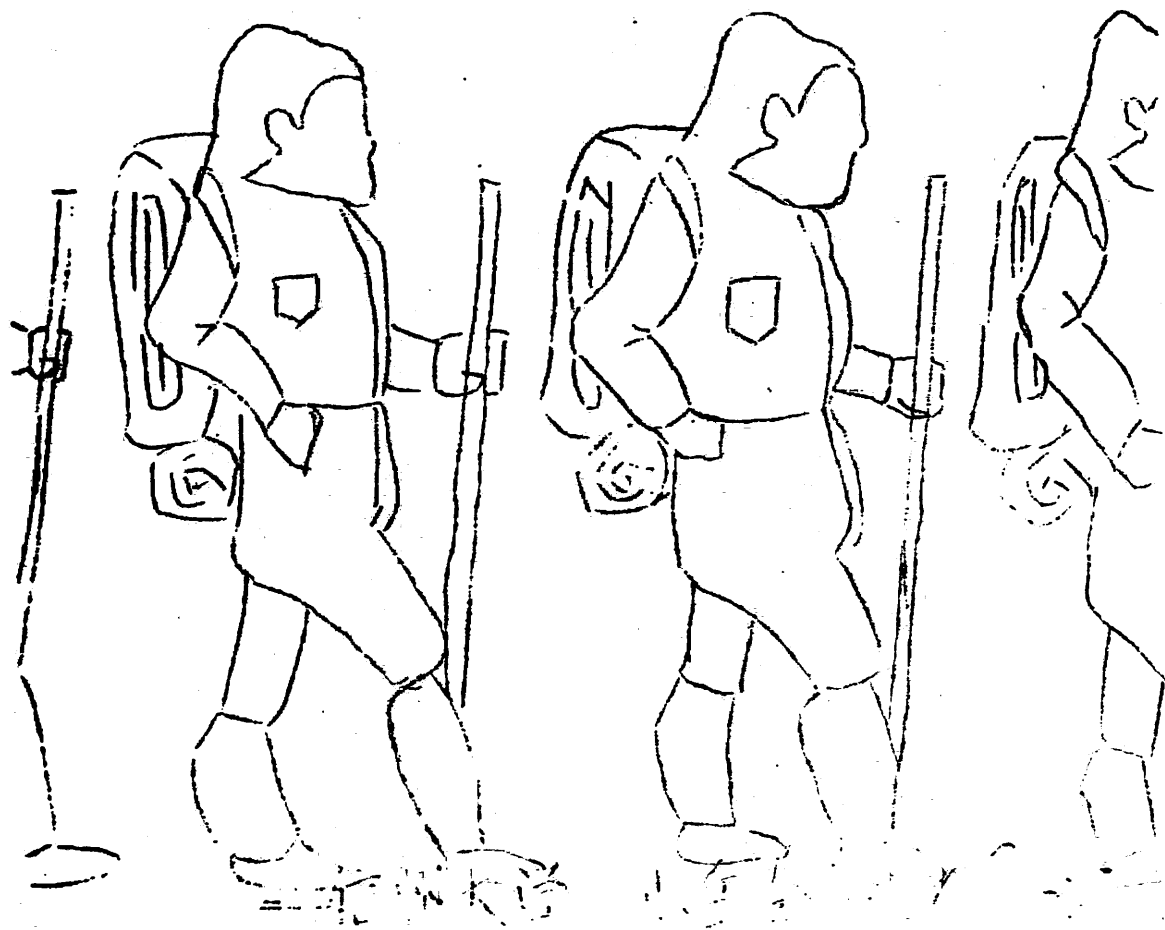


香山 & G.W.

GOLDEN WEEK

山行報告書

1983年度



=目次=

春山個人山行

- 中ノ黒川スキー滑降 1.
- 後立山縦走 1.
- 八ヶ岳西面南部登攀 3.
- 西穂～明神縦走 5.
- 荒沢尾根 7.
- 八ヶ岳 9.
- 鹿島槍北壁主稜 10.
- 白山スキー縦走 11.
- 知床半島縦走 13.
- 鷹槍東尾根～北峰～天狗尾根 19.
- 剣北方稜線 20.
- 剣三ノ窟尾根 23.

不帰春山(ゴールデンウィーク)合宿

- 入山, 不帰三山峰B尾根 25.
- 不帰三山峰C尾根 26.
- 朽子B尾根 27.
- 朽子C尾根 白馬槍ヶ岳北稜 28.
- 烏帽子沢探険隊 朽子C尾根～不帰三山峰A尾根 29.
- 不帰1山峰尾根～不帰三山峰A尾根～二山センター30
ロッジ

○ 中ア黒川スキー滑降

期間) 2/26

Member) ① 赤江, シヤモト

駒ヶ根 - 117号バイパス → 1P → 宇奈月山荘 - 滑降 → 高山高原
スキー場

○ 槍立山縦走

期間) 2/1 - 2/4

Member) ① 赤江, セキ, フジタ, 井上, 宮本

2/1 ○ → ○ → ○

地蔵の頭 10:00 → 中遠見小つぎのJUL 12:00 → 2172m 20:00
→ 立見小つぎ 15:50

午前中は晴。午後からは下り坂の気配が見えはじめ。
地蔵の頭で「うきべ」リフトを乗りつぎ、そこからスキーを始める。
1892mまでスキーで登り、ここから白岳(2541m)の中腹(2400
m)まで雪が固くて「足」で道み、2400mから白岳頂上まで
深雪を踏みスキーを滑った。スキーは「馬」が「足」の補助
した。小尾の東側に到着したところから風雪となった。

2/2 ○ → ○ → ○

夜半からすごい風雨となった。夜まで、オワンで数回だけ
水かきして時間を過ごした。朝起きたらオワンも凍り付いて水が
こぼれていく。

3/3 風ツヨシ 羊(2)

11:15 T.S. (2) → 11:35

9:10の天気図をよみて、冬型を確信し麓を下山に決定。
強風の中、ラフトを撤収して白糸に向って歩だ。稀霧上のア
イスバニて、風が強く、視界もあまり効かず。冬型に依りて本
頂上で、虎降の判断して引かえり。再びラフトをロツケおいて
(2)。麓のあたりを踏まら。

3/4 (2) → (2)

小屋 11:00 → T.P. 12:15 → 不遠見山 12:45 → 北風の壁
12:00
→ 馬尻 13:00

天気は、昨日と同じか、やや視界がいいくらい。
9:10の天気図を書いて、このから先の天気を樂觀でうな
いと予想して思い切つて下りはじめぬ。
東側に下りはじめると、ほとんどホフトアウトで、北
側の雪原に注意しなきて、白糸沢の中へはまり
込んでしりう。斜面の状況は、雨と雪の絡み冷え込み
と降雪とで雪質がニツト分が小いていて、いつ雪崩
しても、不思議がないくらいだ。なんとか、T.P.に
たどりつき、あとは終、マヤ 中遠見山手前のコル
まで下る。途中、不遠見からの下りで北東へ延びる
支尾根と主尾根が10分ほどヤマイ。ガスが時は
要注意、中遠見山手前のコルでライツセル
と照らしたため、アイゼンも17分してスキーをかける。

小笠原山の下りでは雪-をはずし、1800mの斜面には雪-をか
 シミールなして滑り始めた。地蔵の頭について時は、
 もう薄暗く、アイスバーン化した雪-場の下りは大変だった。
 こんな悲惨な山行はもういや!

(イ)ウエ)

○ハノ急西面南部登攀

期間) 3/1 ~ 3/4

Member) ①(イ)ウエ, フジ, ショウト, ヨシカ(忠誠隊)
 行状記録)

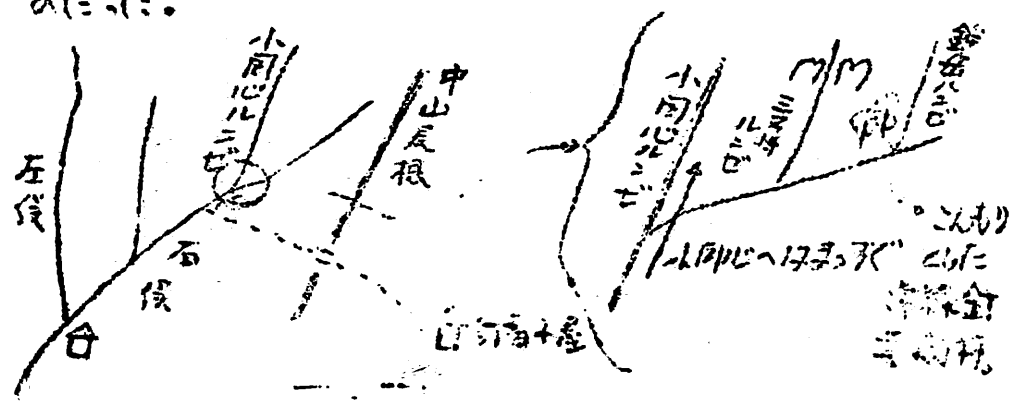
3/1 ① 松本 - 茅野 TAXI 美濃戸 2:40 - 行橋小屋 5:05

3/2 ● (丸)

3/3 ●/○

① フジ, ショウト) Party ニルニルニ (カ) (イ) (ウ) (エ)

11:30 B.C. (丸) - 12:30 針ヶ原に取リツキ - B.C. 2:30
 17日の境に来の状態悪く(水がけが小さい), 500程のもの
 であるが, アスルケで交りかす, 20° (C) がある。ここマシ。
 左に下(北)も出来そう(π?) だが, 両面がへ (イ) (ウ) (エ) ので。
 実は, 三ツ峠へ行つたのであるが, 直陸して1本奥の針ヶ原へ入つた
 の(イ) (ウ) (エ)。



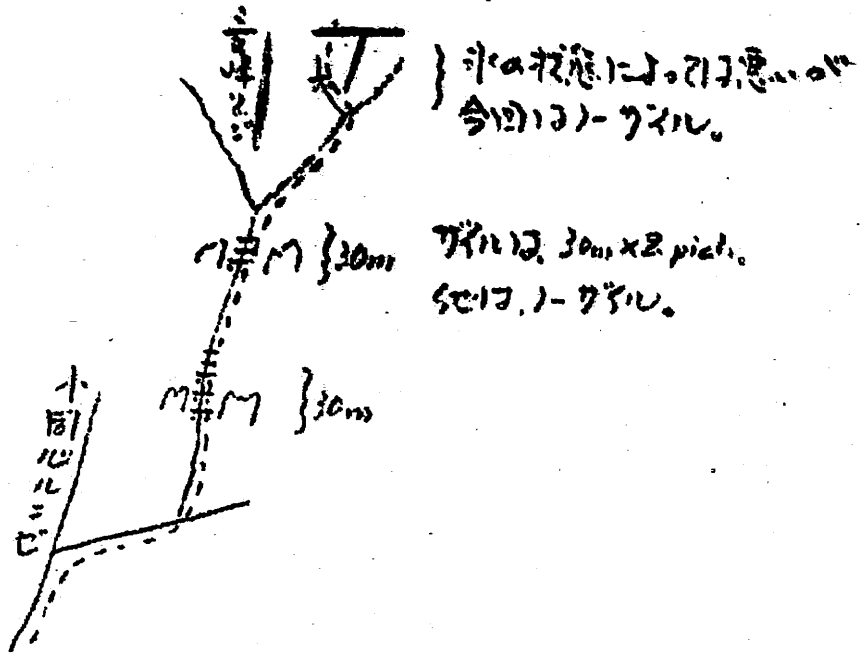
④ イワムラ, ヨシオカ party ウラ同ビルニセ

氷はそれほどなく面白い。同心部で1 Picke アニグイム
岩壁を左上 summitより210ハケン(約300)と使い、氷が
氷がないとカスガルト。

3/4 ④/⑥

④ アシ, カトリ party ミズウキルニセ

6:10 B.C. ④ → 6:40 氷壁 (④) 6:50 氷壁 → 8:00 二俣
→ 8:45 霧線 - 氷壁 氷下 降 → 9:45 B.C.



④ イワムラ, ヨシオカ party ショルダーソッジ石ルート

アビピッチ 6-8 Picke アドベンチに慣れたいには適当なル
トと思う。適度にハイマツでビシクバと小、ルートに1kmの幅
向でいくと大抵落着く方もとてせしめる。岩壁採取のついで
のブッシュの草(急傾斜の雪壁)もアビグイムに
なる。

○西穂～明神縦走

日程) 3/8 ~ 3/12

Member) 毛口 細川 中村 古賀

3/8 7:00発 中湯手前の工事現場

9:00 ◎ 村上小屋 西木がわずかに見える。
(帝国ホテル前) ここで入山届を出す。

13:20 ○→◎ 西木山荘

風は飛騨側から少しある。積雪は
ここで2mくらい。スキーはきりして
いたため登りやすかった。

14:00 西木山荘から1つ目のPを越えたコル
T.S.

3/9 7:45 ○ T.S.発 快晴無風のおだやかな
天気

8:25 ○ 独標着 独標への登りは岩が
むきだし

10:20 ○ 西木着 ここまでは雪の状態もよく
それほどむっかしくはない。

14:00 ○ 天狗のコル着 コルの下で1/2スタカット

14:45 ○ 天狗のコルの次のコル T.S.
1PのP、フザイレンをする。

3/10 7:00 ◎ T.S.発

11:30 ◎ ツェンダルクを2Pのフィクスで
長野県側からまいたが口バの目か
こえられずT.S.にする。

3/11 7:45 ○ 天気はよいが風が強くレゾルも全くとどかない。結局15mくらい登ると、からう目のア、アザイルで次のコルの約30mヒダ側のルンゼを下った所へた。

13:30 ○ 奥木高岳着。
吊尾根に関してはそれほど問題は無いが、岳沢側にははりだした雪と岩場のクライムダウンには注意が必要

3/12 7:45 ○ T.S発
前ホ. 明神V山峰間は、雪より岩の割合が多く、特にクライムダウンと雪壁の下り多くなってくる。II山峰の登りではIII峰程度の岩場が出てくる。約17.5km

12:30 ○ ⅡV山峰着
天気はよいが風はけっこうある。ここまてくると尾根上にはほとんど雪がなくなる。

14:00 ○ 上高地着
西南稜は木が多く、とても危険なところもフックスなしで行けた。
途中から右側を沢へおり尻制臺で快適に下った。

○荒沢尾根

3/8 ~ 3/11

メンバー L. 藤井卓也
岩村孝之

3/8 松本 ~~→~~ 大町 — 鹿島部落 — 東尾根
○
— ニノ沢頭直下
○

雪の状態悪く、歩けど歩けど進まない。
シンボイ

- 3/9 7:00 ○ S.H 登
- 7:50 ○ 荒沢のコル 昨日同様ヒサナ雪
- 9:00 ○ 荒沢尾根 — 山峰のコル
- 10:40 ① II山峰への登り、途中よりアイゼン
雪の状態クサグサでアイゼンもあ
りきかない。
- 12:15 ① II山峰への登り、雪の空洞にヒビリ、
ながら高度を上げる。途中 2pitch
アンザイルン 10m程のルンゼが悪い
- 1:30 ① さらに傾斜の強また雪壁を 2pitch
(80m) 登り、雪稜にでる。
50m程 雪稜を歩きく(雪グサグサ)
- 2:00 ① アンザイルンして 太い2本のカバの木
から雪壁を80m登り 2峰直下へでる。
傾斜のない雪稜をさらに40m伸ばし
- 3:10 ① 北俣側に S.H. を作る。
- 3/10 7:30 ⊗ SH 1pitch目 稜線添いに15m程
トラバースし キノコ雪を北俣側にまき
こみ、アイゼン使用 5m 下降

ソニ吉の墓司がイヤラン
みみし 塔し穴だ。

- 2Pich 50°程の雪壁を40m右上
- 3Pich ホリツを右に回り込み、凹状(60°)の雪壁を30m
- 4Pich さらに右上気味にブツツを指し40mのはずキノコ雪の上にてた。
- 5Pich 右へトラバースして 同い凹の雪壁を40mのはず
- 6Pich 15mのはして主稜線上の太いカンバの木でビシ
- 7Pich 何重ものキノコ雪にビビリ乍らなんとか越し、40mでキノコ帯を越す。
- 8Pich 3山峰の6岩峰基部まで行くが(15m)巨大なキノコ雪が壁にせうも人なら越してみろ。ボケロと言っている。キノコ雪の反対側にキレイな娘さんが待ててく
- 100 ☒ れるならいざ知らず、こんなこわいとこ登るかい... という事で同じ木下降する。アッポサイレン4pich (内2点をスノーバーを埋め込み残置)残りはスノカットで
- 5:30 ☉ 朝のS.Hまで帰る。何んとか無事帰ってくる。

3/11 ① 8:00 S.H. 2山峰Peak 40m上部より北側側に40mアッポサイレンとクライムダウン。1時間で荒沢まで下る。
《ここは実に良いエスケートルーフであつた。》

1:30 出合着

《感想》 越せぬから落ちるまでまじろキノコ雪(岩村)
越せぬから落としてしまえキノコ雪(藤井)

コメント... 南岳を登るのは危険である(下降はできる)
ホクラの峻険エスケートルーフは実に良い。雪量に無関係と思われ。荒沢尾根に取りつくと考えに入れとく方がよい



○ 八ヶ岳

25 ~ 27

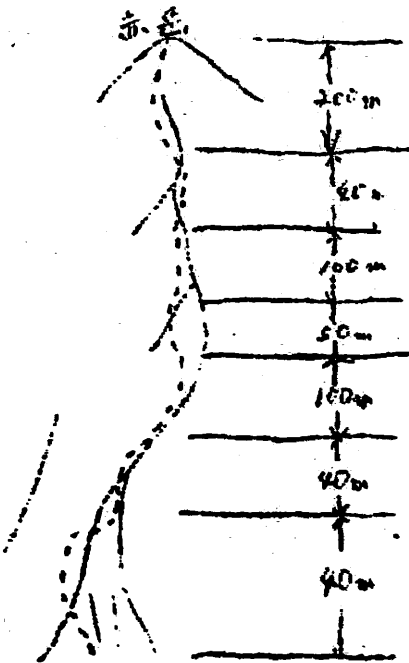
メンバー △ 田浅, 中村 寛平

25 ①

松本 ~~====~~ 岡谷 ~~====~~ 美濃戸口 ~~====~~ 行者小屋

美濃戸口から行者小屋までは約2キロ。トースが(ッカリ)しているため運動靴で行く。

26 ① 赤岳主稜



中3本が得意。2:15

左の池を右尾根へ切りか

2:15の19"3

2-4の1本は、岩がまじり

2:15で左の尾根からルンセ"を

6:30 2-2 から尾根へ出る。

ルンセ"を避け、左に巻くルンセ" 上部へ出る

8:30 取付
12:30 終了

14:15 12:30

今年はずが少なく、岩がむき出しになって、ところどころが危ない。岩はがなり、よく注意が必要 (中村)

36 ① 1000m 下山

4:15 4:15 見送り、1000m 下山終了、12:15

○ 鹿島橋北壁主稜

期間: 8/8 ~ 10

Xバー: 4. 福川: 9カトリ

8/8 ①

大町駅 ⁹⁷³⁻ 大谷原 — 尾根系端 — 天狗峰 (S.H.)
 8.00 9.00 10.00 11.00

ク-ロアルはオ-、ニと問題なし。

8/9 ①

S.H. — 取付 — 右側の右稜と主稜の間の小虎根の基部
 6.15 8.05 12.00

— 鹿島橋 Peak — 冷池山荘 (冬期小屋)
 15.10 17.00

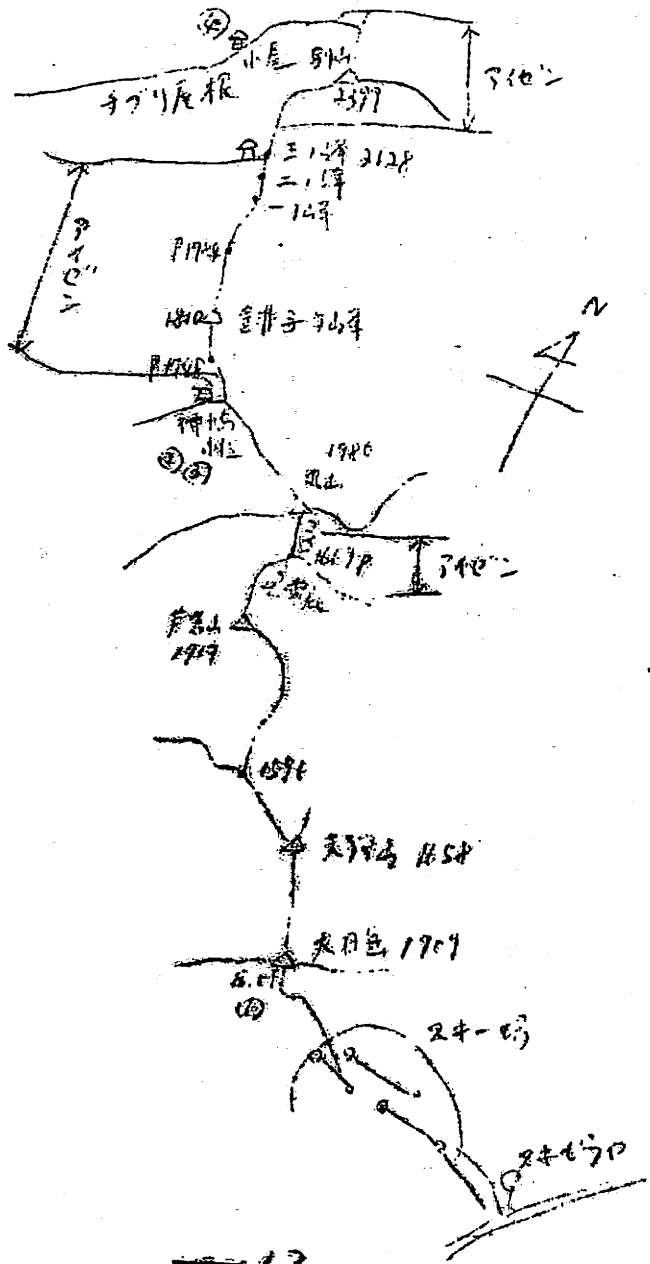
取付は北壁基部とトラバ-ス3カ所にて取付のルに向か
 左側からルに至るルから2 pick 行ったおりにからずれ出
 がルから横た方がよい。ル-トは登山杖と取りたが、黒い
 滝の下から右に流れるのは草で覆った岩壁で少ここの
 小虎根の基部までと2 pick。基部から大きなル:セ状をコ
 ンで登り、途中から主稜に入城する。向方に右に行く。
 主稜を行くそうだが、主稜を越え、ル:セと1つ越え、次
 のル:セをつめる。このル:セに、2つから1 pick して向方に左側
 のカンラ状に出、そこからコにて進んだ。大きなル:セ状を
 ぬりながらある程度どういかに行けると思う。Peak 上
 はサレ3 pick 使用。冷池山荘までの道はほとんど露出
 した。

8/10 ②

山荘 — 爺岳中央山 — 東尾根 — 鹿島橋 — 天狗峰
 7.20 8.30 11.00 12.00

爺岳東尾根の下りは難しい。鹿島橋の真上
 に出発した。だが、ガスでル-トがわからなくなり、東尾根北
 側に降りて(8.12) (7.40)

あと準備は、もし(が)ない、この先登から下山するから、ここにチブ
 リ尻根を下山するお送るが、関のじ、ラインアのワイヤ-が切れる
 いるので、チブ尻根を下山することに73、チブ尻根の途中が
 北側の斜面をトラバースせよ、小適石村林
 帯の滑降、手持が、林道に出るまで24-1は、沖(
 が)途中から除雪(は)あり、又時間、林道を、と強いる水、
 あと、バスで奇沢へ出される
 (前山)



知床十島縦走

日程 3/17 ~ 3/30

メンバー L.岩村, 保科, 日高, 吉岡(社人)

行動概要

3/17 松本 ~~→~~ 新宿, 上野 ~~→~~ 青森

3/18 青森 ~ ハジケ ~~→~~ 斜里(駅小屋)

3/19 斜里 → 宇登呂 — 知床横断道 C545 愛山荘

3/20 知床台風通過 小屋にて沈

3/21 小屋 ~ 横断道 C700 地点 SKIのピンポイント故障

→ C545の小屋まで引きかえす。

3/22 小屋 — 昆白 南西尾根 — C1100 西南山池 — 滝又岳 Peak

— ツツノ平 — 三ツ峰ハコル △

3/23 沈

3/24 三ツ峰ハコル — 中丸岳 — 木カバ竹岳 — 南岳

— 知床別手前 C1450 ~ 60 湿地帯(凹地) △

3/25 沈

3/26 C1450 湿地帯 — 東岳 — ルシヤ山 — ルシヤ原頭 C300 ^川 ₂₁₀

3/27 C300 — P258 東の丸 — P786 — P735 — P812 [△]

南側斜面の樹林帯(粗林帯) △

3/28 P812南 — 知床盆地 — 知床沼南東 C870 台地 △

3/29 知床沼 — 赤口毛岳 — ウヰツ門岳 — ウヰツリから

北面ハ神(石)尾根(C522 Peak) — 山(小屋)

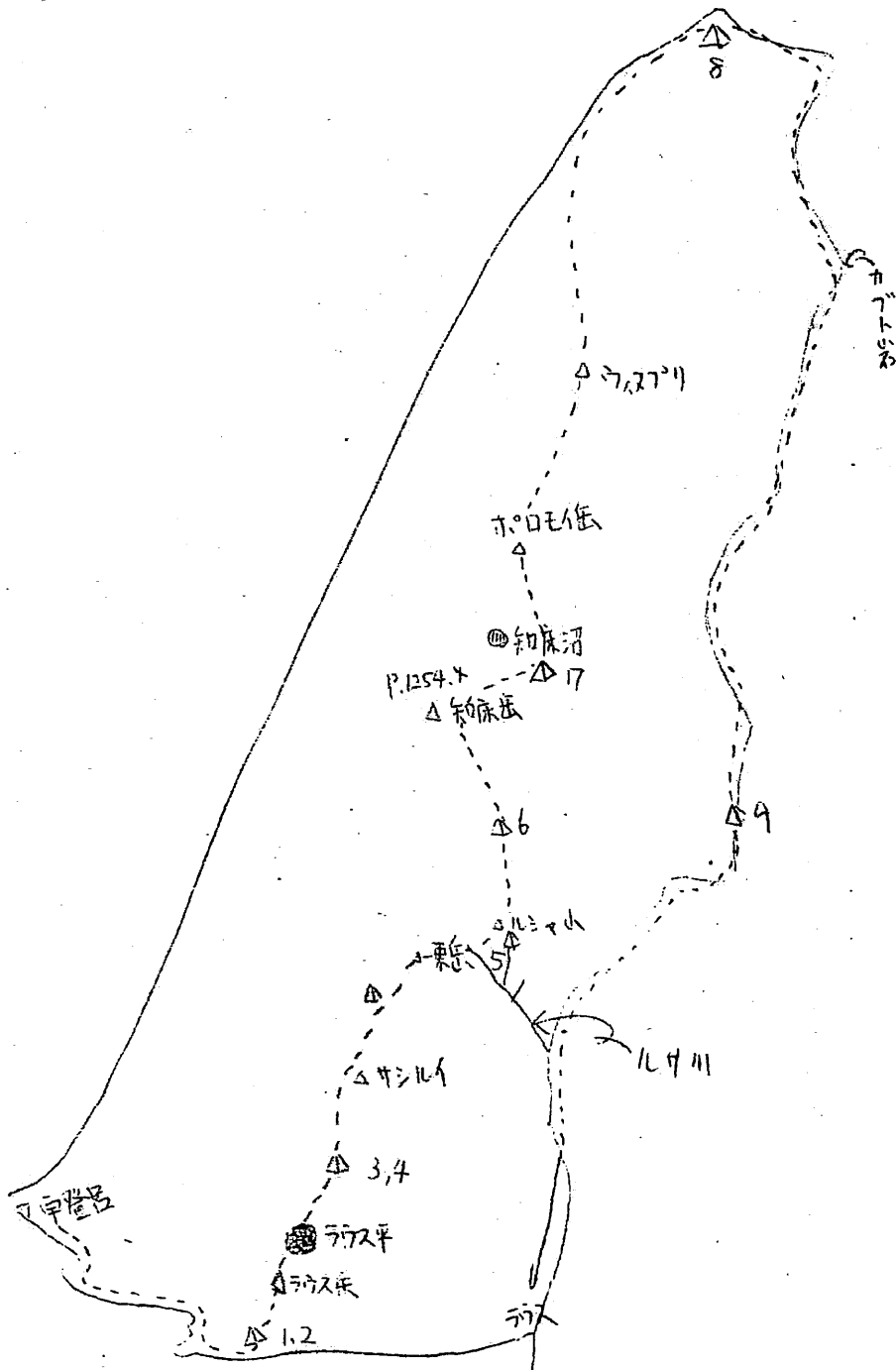
3/30 山(小屋) — 東側山海岸線 — カトノ岩 — 急水岩

— ツツノ平 — 船泊 △

3/31 船泊 — 木カバ岩 — 剣岩 — タケノ岩 — 化石浜

— 崩浜 — 相泊 → ツツノ町

概念図



行重打新巻

3/17 ① 10:00

宇登呂発

スキーニールをつけて横断道を出く

② 12:00

横断道分岐点

③ 3:00

C545

ガス、風ともに強い。おんとか小屋をみつけ本日
はここでとまることにする。

3/18

④

知床台風通過 沈殿。

3/19

① 7:10

スキーニールをつけて出発、横断道途中で係科のピン
ディングワイヤーが切れ(8:05)小屋へ引きかえす。

② 9:30

再度出発 しかし、C760あたりで係科のもう
一本のワイヤーが切れたので小屋
まで引きかえす。

③ 1:50

岩村、吉岡で宇登呂断まで、ワイヤーを調整しに行き

④ 9:30

小屋着。

3/20

① 7:15

小屋発 西ルンゼ基部までスキーで登る。C950
あたりでアイゼンにはきかえす。空は一
転してガスとなる。高層も上げるとしたか
って、ガス、風ともに強くなる。時々
スキーをつけたガックが強い風にひた
れる。

② 11:00

ラウス岳 Peak ラウス平までコンパスと地図を頼りし
下る。

③ 12:40

ラウス平着

④ 2:30

三ツ峰 Peak

⑤ 3:00

コル着 T.S. ガスがひどくみつけるのに苦労する。
コルは風が弱く周辺では最高だろうと
思われた。

3/21 ① 8:00

②が指丘、天気悪化ハルマゴ沈

③ 4:30

天気はくすれりぬころか、完璧に晴小上る。

3/22 ① 4:40

②と市線通過で巻小屋はすてた。

③ 10:30

④少しづつくたなりとしかく知州別荘まで

2/25 地別午前 湿地 T.S. 地図とコンパスをた
く、は風が弱くテント
うた。

3/23 ① 1:30 ガスが暗水そうにないので沈黙とする。

3/24 ① → ②
6:10 T.S. 発

① 6:35 地別直下でシールを着け東岳を越し537
のピークに出る。

7:35 シールをはずしスキーを固定して滑降を開始。
しかしアイスバーンと深雪で皆七転八倒。

② 9:30 ルジャ山手前 ガスが出てくる。ハイマツ帯
が氷どくなりスキーをはずす。

③ 11:00 C550 ハイマツに足をとられるため
仮スキーとシールをつける。

④ 1:05 湿った雪が降り出す。

⑤ 2:10 ルジャ川流頭 C300のゴルテントを張る。

3/25 ① 7:05 T.S. 発

② 7:30 ルジャ越えスキーをつけ左の沢の左岸をト
ラボース気味に高度を上げる。尾根はブ
ッシュに覆かこれそうだし、沢は所が出て
いて覆水そうにない。

3/26 ① 11:30 R735 R730を越しA8段南の粗林
帯にテントを張る。

② → ③
8:00 T.S. 発 ④が降り出しているにもかかわ
らず濃いガス

③ 11:00 知床手前 ガス。風が強まる。台地までア
イセンで行き、そこからスキー
には三かえり。ガスが濃く地図とコンパ
スをもたよりに進むが地形に起伏がなくよく
わかからない。とにかし、一度をこける。南
面に下りテントを張る。

3/27 ① 7:00 T.S. 発 前日入馬天がうそ入った。

② 9:35 赤口モイ岳 スキーにシールをつける。

③ 11:00 7777のBlack

- 2:00 (200mで下る...ここをクレーンをつける)
- 4:00 岬へ出る。
- 5:15 岬の小屋。
- 28 ①9:55 T.S. 発。
- ①→②
11:50 カズト岩の直前のルンゼンとイセムンなしで登る。(100m)
下りは息遣が あり問題なし。
- ②2:00 念仏岩 流氷とヒスキーとはいて通過する。
- ③5:50 ヲガネ岩直前の船泊の小屋の前にテントを張る。
- 29 ④7:10 T.S. 発。
- ④10:30 化石浜からウナギヤツ川までが最大の難所であると
思っていたが結局ここも流氷と氷塊 難なく登れた。
- ④2:30 相泊着。

《コメント》

ボクらの経験から次回知床に行く人が何らかの知識を捨ててくれ
れば幸いです。

① 期間

知床は冬以降に入山すべきである。特に近日前後から天
気は明確に安定し、ガスが出なくなるとは様だ。天候の要
は北東の冬以上に波しい。それは4月に入ってもた
ぶん考慮しなければならぬ。たうがともかく、3月よ
り4月の方がよと乗しを分には、ベストだと確信する。

② 天候

まずラジオの天気図では判断が難しい。人の前面で終
日霧水たり、霧動Hにおおわれ悪化したり。また極地
的な天候の急、道内の予報と正反対にしたり。
これに対処するには、ある程度の親天候と動ける階に
少しでも動くという進み方しかないのではないだろうか。
ある程度の all weather 行動といたる気象判断は絶対必
要だ。そして何より注意しなければならぬのは、二
つ玉体気圧と知床直撃の低気圧だ。知床台風といわれ
ている奴だが天気図をまじやと直感したら、何が何でも
500以下にテン場を下すべきである。

③ 靴

スキーとシールは、ボクらにとって登山靴の一部だ。た
りカンテ歩くほど、.....

ん4 小岬からの海岸線

例年は着氷して、いさよのほり月の中旬かから20日頃と、う話Tある。
 当然帰路入港に線は、のほり月の中旬かから20日頃と、う話Tある。
 ライン派空に、いさよのほり月の中旬かから20日頃と、う話Tある。
 海岸線を、見たり、た、い、高、自、に、合、う、一、ド、ア、も、と、空、中、の、で、は、
 知、2、は、も、て、い、っ、た、う、が、良、い、。、ノ、々、所、も、と、空、中、の、で、は、
 ゲ、20、は、も、て、い、っ、た、う、が、良、い、。、ノ、々、所、も、と、空、中、の、で、は、
 なると思、う、の、で、出、来、た、ら、い、い、。、あ、っ、た、う、が、よ、い、だ、か、雪、の、あ、る、
 マスキー、を、か、く、ス、キ、ー、を、。、こ、れ、に、勝、る、も、の、は、な、い、。、雪、が、な、い、の、
 所、は、と、も、か、く、ス、キ、ー、を、。、こ、れ、に、勝、る、も、の、は、な、い、。、雪、が、な、い、の、
 なら、ま、だ、し、も、。、高、巻、さ、み、。、勝、ト、重、ト、。、
 に、捨、て、る、の、は、。、あ、ほ、う、だ、と、重、ト、。、

ん5 Xンバー木構造

とにかく、若いガスの中で、MAP (か) で、さる人、肉、が、い、ら、れ、
 ば、即、遭、難、に、つ、な、が、る、。、マ、天、候、判、断、か、ら、ず、と、行、動、に、移、れ、る、極、
 が、無、け、れ、ば、前、に、進、め、な、い、。、
 正直、ノンビリと歩ける、山、は、お、か、た、。

ん6. その他 毛口毛口

いやー、なんち、かんち、言、っ、た、け、ど、高、い、金、だ、し、。、寒、い、中、
 十、何、日、間、も、空、腹、に、た、え、な、が、ら、女、の、子、も、い、な、い、に、。、
 痛い尻、こ、た、た、ま、な、が、ら、岬、に、立、っ、た、所、に、は、
 「本当に嬉し、か、た、ア、」

(文責 岩タン)

鹿島橋 東尾根・北峰・天狗尾根

- ・メンバー ; 澤田, 田淵, 藤田, 井上
- ・期間 ; 3/20 ~ /23
- ・行動記録 ;

3/20 ○ 松本 5:15 ~~→~~ 大町 - 大谷原 7:15

— の沢 1 頭 10:15 ~ 南俣のゴル (B.P) 12:00

天気はドゥ晴れ。暑くて仕方がない。タクシ- (2700円) は、
鮎部港のちい上の釣振まで。東尾根は取付から南俣のゴルまで
しかりトレースがあり楽チン。アイゼン不用、ラッセル覚悟で
氷の多さひらひらげ。ゴルでS.Hを掘った後、日付たボッコ。
荒沢は 10:00 ~ 12:00 頃まで雪崩の音が絶えなかった。

3/21 ○ → ○ 南俣のゴル 7:15 - オ-岩峰直下 7:55
(B.P) 沈没

降雪の為、オ-岩峰直下まで行ってS.Hを掘って沈没
S.Hを掘る間、沢田、藤田がオ-岩峰に向ったがかなり雪崩の
着に引き返した。今日の降雪の為トレースも消え外は
軌とかなり美しい。

3/22 ○ オ-岩峰直下 6:05 - オニ岩峰 8:10
- 荒沢 1 頭 12:45 - 北峰 1:15 - 荒沢 1 頭 1:45
- 小倉岩から少し下った所 4:30 (B.P)

オ-岩峰はスカウトで3Pの後コにてオニ岩峰基部
にいた。ヤチ田の雪壁で沢田 - 井上, 田淵 - 藤田で
登る。コにてたてからはヒザ下のラッセル。オニ岩峰はフ
クス。リッジの左のルンゼ状に登りた-トラバースし、普通
は4m - 1本を登るようながさうしたのキャンを回りこんで
どしどし。どしどしから20m程急な雪壁を登山ばあとは
北峰まで箱に危険なところは無い。

天狗尾根根の下降は小倉岩が3つほどあり3回ともスス
した。小倉岩を下りたところでS.Hを掘る。

Eaton 暗い氷のS.Hにかえり志すいれこころいづく。

3/23 ① → ② S.H 6:00 - 天狗の鼻 6:45 - 荒天 出谷 9:10
 - 大谷原 10:15 - 鹿島部落 11:30 ~ ~ 大町
~~松本~~ 77シー

高曇りで夕に雨が降りそう。天狗鼻で急な雪壁を4.5ヶ所、慎重に下る。天狗の鼻で急下降しているオズクロアールは急だが、きついステップができており雪も(中)まっているので思、たいたい(楽)に通過できた。オズクロアールも同様 樹林帯に入るとむぐりはじめ荒天までいよいよ下降が続いた。

記) 井上。

剣 北方稜線

Xンバー; L フジイ, ホリカワ, タホリ

期間; 3/18 ~ 1/26 /

行動記録

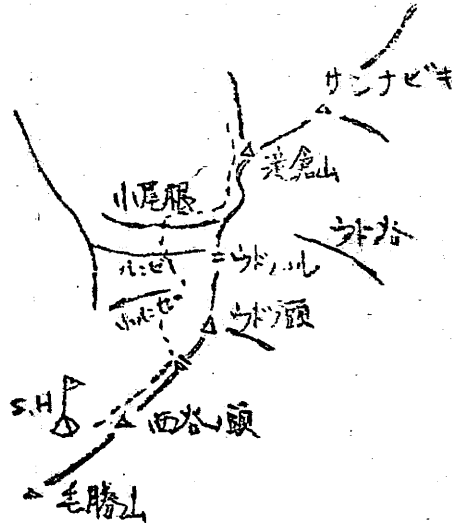
3/17 ① / ② 松本 ~~松本~~ 猪野馬 - 1200m
 ヒナニ小屋は大きい雪のスキ間から雪が入り、ヒナニ小屋近
 くる。スキー場は天候が悪くリストが動いていけなかった。

3/18 ③ BP 8:15 - P143/9:20 - 1500m 付近 S.H
 11:20
 昨日からの凡は依然、ちぎれず P143/1 達する頃にはガスも濃く
 P151) シロイがはげしくなってきた。雪庇が大きくできているところもあり
 1500m 付近は広く方向がわかりにくいので若干もどって S.H を振る。

3/19 ④ S.H 7:20 - 僧ヶ岳の手前 8:10 - 駒ヶ岳 10:55
 滝倉山を若干登ったあたり(1780m 付近) 14:25 S.H
 僧ヶ岳の手前からアイゼンをつける。セルシを2日程ふみぬく。
 登りは結構きついよ - 雪が厚く S.H を振るのに2長杖かかる

3/20 ⑤ S.H 6:50 - サナヒビキ 8:25 - ウドのゴル西側
 10:45 - 5 峠 12:15 -
 山頂から下る際のゴルから少し登ったところ 13:35 S.H

毛勝の登りに入るまで水が流り、セルが1はくい。セルも大きく出ている。ウドノ頭へ続く稜線上、ミヤセいらいけのうらにけいひのミ、ウドのツル手岩(北)から小尾根を少し下り、急な雪壁からゴル西側の方カールに下りる。ウドの頭を大きく手いて、40°程のひくいルンゼを登りかえし、平杖乗越へ。三勝山の登りに入、圏ヲ(まげ、S.H)の道地はあつた。



3/21 ガス + ⊗ で ③

3/22 ① S.H 6:15 - 毛勝山(北峰) 8:05 - 猫又山を少し注ぎ
11:45 - 猫又山 - 赤谷山のルン(ブナクラ乗越)から、赤谷山を登、
ヒシ (1840m付近)

毛勝は急登だが、毛勝をすぎたあたりから、赤い積層帯が出てきた。
釜谷山を過ぎたあたりからザクザクにツリワカンに変えた。ブナクラ乗越へ
行けばツルンゼがいくつかあるが下部乗越へとトラーバースする人が
難いように結核下を降りたけいけいというようである。結局、
ほげ尾根とろ(に)行、たけいけいだう。
乗越への下り最後は、急なルンゼでスタッフを切りたけい20m程
下れた。

3/23 ② S.H 6:30 - 赤谷山を下、た若干にある大きな岩
③ 8:45 - 赤ハゲ手岩のルン 9:30 S.H (2200m)

空模様が少し曇り出した。でも S.H の適地がおりょう
F1000 とは 3 打で送ろうとしたので、ここでヤメ。大きな岩の陰はビバークに
最適。

3/24 ④ + ガス = ⑤

3/25 ① S.H 7:00 - 大窓 8:15 - 池の平の山岩峰の
手前 9:15 - 小窓 12:00 - 三ノ窓 14:30 S.H

赤ハゲ・白ハゲ間の稜線はやせて少しセツピには注意。
池の平山の岩峰は直登 (1 pic) 後、懸垂で再び降り (20m)
池の平山までも、やせていて緊張 (少し地形が複雑) だが
ガスが出ている時は注意。小窓への下りは、小窓谷側
へかうむろに雪崩をうける急斜面を下る。小窓から、広い急斜
面を登り小窓尾根に出、小窓王の基部を目指して、トラバース極に
進む。若干下ったところからアザルン 2 pic (40m) x 2 (40m) で
池の平佐保に降り、少しの降りかえせば三ノ窓である。
アザルンの支桌 (ピン) はあった。

3/26 ① - ②

S.H 6:45 - 本峰 7:55 - 8:30 - 伝蔵小屋 9:55
- 伊折 14:25 → TAXI 上松駅 → 松本

倉庫前の雪が (まだ少し) 岩稜がたいに行かないところもあった。
早月尾根の下りも雪の状態がよか。途中数ヶ所がバネニジダラン
馬場島打車が入って、伊折まで 2 本歩いた。(たかこ)

期三: 雪見板

・Xンバー; 加ト コバ

・期間; 3/20 ~ 1/28

・行動日記

3/20 ① 松本 15:32 ~~→~~ 大町ゲート 17:30 ~ 南東トンネル 21:00
夜道の有料道路も、ひらまでのラッセルを経て南電トンネルへ。
トンネル内の工事用テラハダ宿舎にてお泊り。電気・水道・酒・ベッド付也。

3/21 ② - ③ - ④ - ⑤

12:00 打荷機の後現役。

3/22 ⑥ 5:20 T.S. ~ ⑦ 11:30 ハシゴ谷乗越 ~ ⑧ 1:50 二俣

~ ⑨ 1:50 二俣 ~ ⑩ 3:15 三の巻尾根末端セロウ

丸山車壁基部キアトルスあり。加トキヤ調子わるし不聖生の
女社か? ハシゴ谷で扇沢の様子どうかがうが結局沢通しに
雪崩に注意しワコウ二俣へ。今日ワコン

3/23 ⑪ - 小雨 - ⑫

⑬ 8:20 S.H. - ⑭ and ⑮ 10:40 1800m 平坦部

~ ⑯ 20日のルニセ状雪壁の穴。

雪の厚さラニセ状にワコウ。T.H.Y.Y.にて2P スキカット
天候は小雨。1P日はワコンでも良。10日今日ワコン
以後伝蔵小屋までワコン

3/24 ⑰ 4:40 9:20 S.H. - ⑱ 10:20 ルニセ状雪壁の上

~ ⑲ 1:20 2P スキカット - 60m 3:50 2P スキカット

~ 3:15 ⑳ - ㉑ 三の巻コル

朝方ワコウで打荷機。ルニセ状雪壁上で雪崩(三の巻岩沢畔(岩))
で大巻谷の巻再び打荷機。急な雪崩でガレ使用。
今日ワコンは、一歩に雪が降り落ちる。

1/25 ① S.H. P. 10 ~ ① 8:40 地の本乗越 ~ ガス長次郎谷の頭
付近の雪は 9:20 ~ ガス本峠 11:07 ~ 12:25 ~ ① 凡 1:30 P2614
~ 3:15 ① 伝蔵小屋

本峠までの横線は雪も積る雪壁も急でシンドい。

長次郎の頭付近雪は 15m 日本海側エアザレン

(実は長次郎谷側と巻く) 早月尾根下降は下手なバリエーション

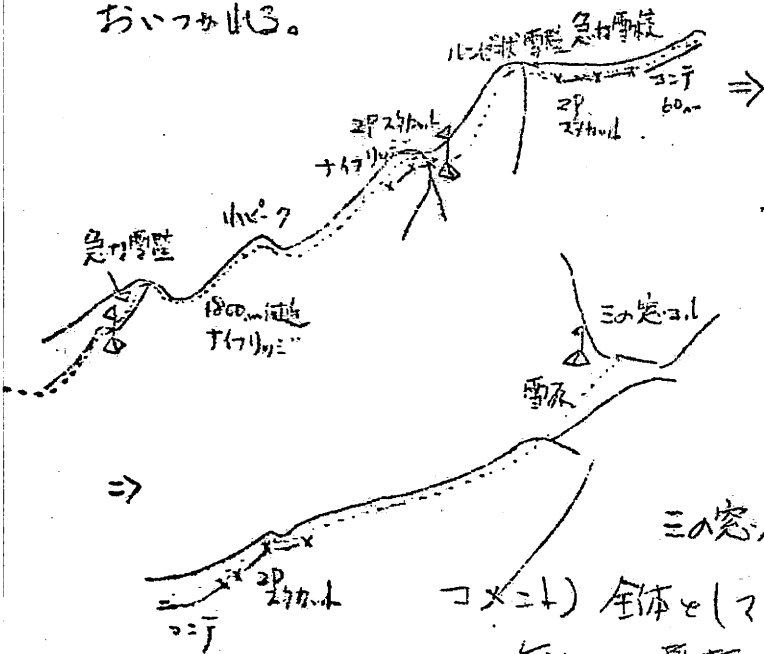
トリ難か(いつものこと)で三ノ頭付近までほとんどクライミングダウンで

降りる。途中がスガ尾根上で迷い時間を喰い伝蔵小屋まで。

ストーブ、ビール、缶いも、サラシ、中華調味、トクニ付也。

1/26 B.S ① 8:00 ~ ① 11:00 馬場島 ~ ① 1:30 伊折 ~ (北方横線疎と
合流) 上松 ~ 松本

雪は積まっているがトース合い。伊折 10:30 頭まで雪上歩行。
伊折でビールを飲んでいると頭のおかしい車中(三人組)に
おいつか出る。



三ノ密尾根ルート図

コメニト) 全体と(マ重い雪に苦しんだ)
向も同じ尾根でした。

26

○ 不帰看山(ゴールデンウーク)合宿報告

期間) 4/29 ~ 5/5 *雪がなく1日早く切り上げ

Member)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① 細川 | 鷹取 |
| ② 澤田 (4/30 ~ 5/5) | 保科 (4/30 ~ 5/3) |
| 中村 (4/29 ~ 5/5) | 藤井 (5/1 ~ 5/5) |
| 藤田 | 田辺 (5/2 ~ 5/5) |

行動記録)

4/29 | 入山。松本→白馬²²→二股 12:25 → 林道終点
① → 14:00 湯之入沢 出発 T.S. 13:10

T.S. は適当なところをみつけて、少しもどって小川の近くの雪の上にはいた。(藤田)

4/30 | ①→②

○ 不帰三峰尾根

① 細川, 藤田

4:55 T.S. ②

7:30 三峰基部

8:30 尾根を越えて(12:00頃) 尾根上を降りて

11:25 終了

11:50 8:30 ②

12:00 尾根上

12:30

- 1 Picth (糸川) 40m 大きな岩峰積雪のいせが 日月 根にこりつき、ゆるやかな雪積でいく。
- 2 Picth (藤川) 30m 雪積からヤヤをハトラガスし、ルンビエ岩の間へ下へ。
- 3 Picth (下ツカワ) 40m 雪のつまった岩の間から岩積をよこりにみ、ルンビエ側のハイマツ帯の岩を登る。
- 4 Picth (フジノ) 40m 急な雪壁からゆるやかな雪積。
- 5 Picth (糸川) 40m ハイマツ帯を不登りし、むしろ岩を細いフジノと頼りに登る(いざいせき)次にハイマツ帯の雪積。
- 6 Picth (フジノ) 25m むしろ岩積からゆるやかな雪積。
- 7 Picth (糸川) 40m キコ雪のルンビエ側にはきフジノ帯の岩へ。
- 8 Picth (糸川) 40m 岩をルンビエ側へよこりにみフジノと雪の積り、フジノで登る。

comment) 雪の多い(フジノ(ハイマツ)やむしろ岩が月(日)の下階はルンビエの雪にたかば、急な岩にいき、岩積とありかた、とにした。下分下る。(藤川)

○ 不 三峰(尾根)

① 中村、ウカト

取つた 8:10 終る 11:00

②: せきつめ、P1の次のルンビエのあ(り)から取つた。

- 1P (ウカト) 40m 三尾根をルンビエから尾根とあがら
- 2P (フジノ) 40m P2のたて下から尾根へ入る。
- 3P (ウカト) 40m 雪壁をこの平地の尾根と進む。
- 4P (ウカト) 40m キコ雪の帯にたかば、雪の多い下階のルンビエ側へ下る。

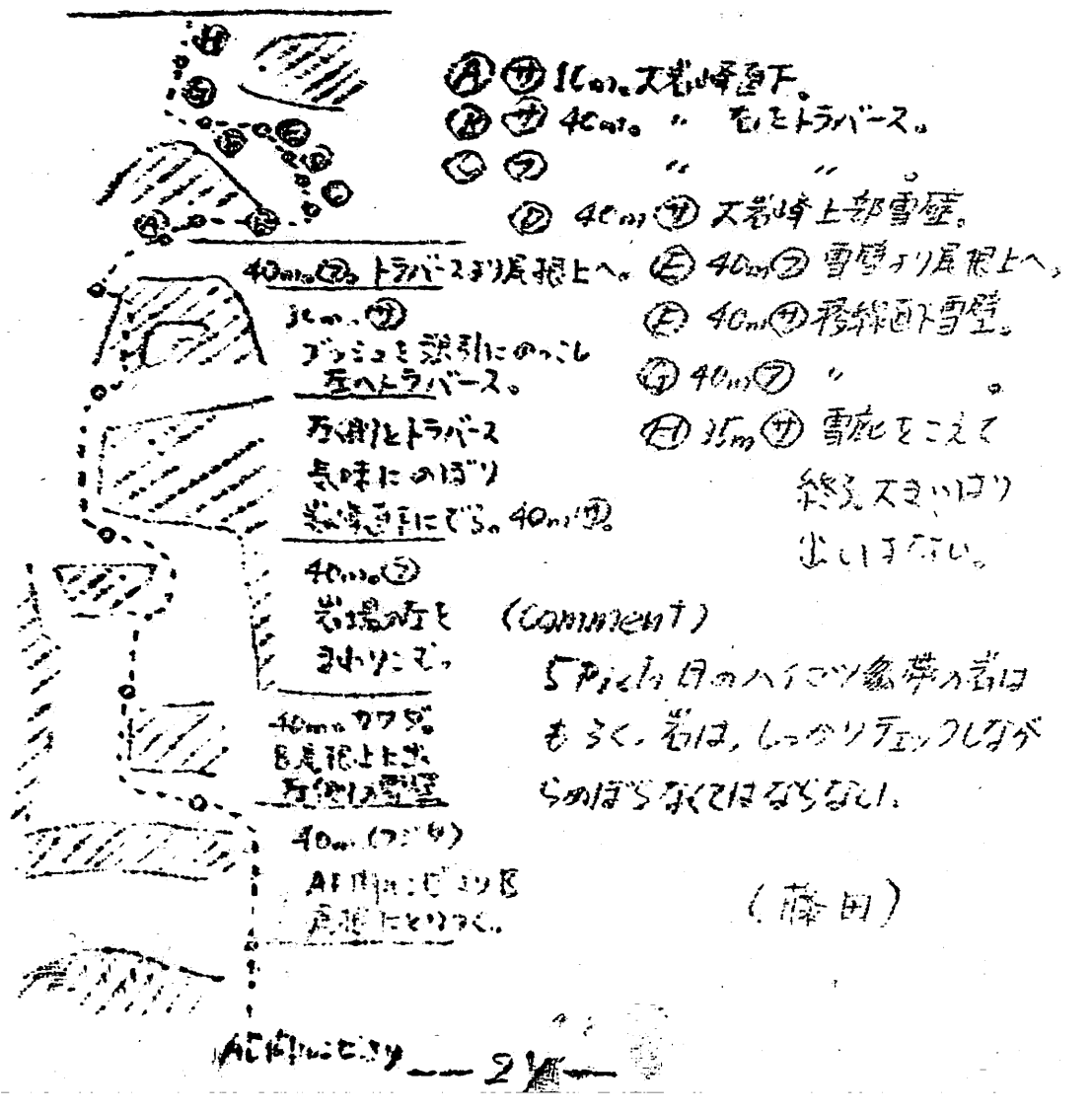
5P(夕) 雪壁を50mほど登った後、雪壁を少しがさ(?)気味の
ところまで所乗越え、縦走路の手前になる。

*向、アフリテ、下降は、細川Partyと併した。(中村)

5/1 ○—○—○

○ 杓子8尾根 ○ 沢田、藤田

4:45 B.C. ① → 5:45 六を南門、滝上 → 6:30 杓子沢の終
500m地点 → 8:45 取っ手 (8尾根通下でバスバタタリ
南門まで) → 12:15 終了 双尾根奥の杓子コル所迄の
アフリテで杓子沢に下降。 → 15:20 P.C.



○ 梅子C尾根 (④ ホシテ、タカト)

4:45 T.S. (④) → 5:35 センテック上 → 2:45 C尾根 2100m程
登ったとこ → 13:20 終了 → 15:20 B.C. 着

T.S. から取りつきまでは 3 picls であるが、尾根が見えてからのだ
らだらが長い。尾根は150m 末端からとりついたので、下部は岩
がでており、ザラザラ(Ⅲ)。ブッシュ登りであった。雪壁に入ってしばらく
くで、スタックで止まる。下から見ても同様になるところは、2つ
の極長の岩壁だった。1つ目は石に寄り、2つ目は石に寄った。
稜線へあがる最後の 1 picl は、岩でⅢ。全体をよみて特に
難しいところはない。もっとも、雪のつき方によって大きく変わる
だろう。 (C=4ピル)

○ 白馬槍ヶ岳北稜

④ 細川、中村

4:50 T.S. (④)

6:20 北稜取り付き

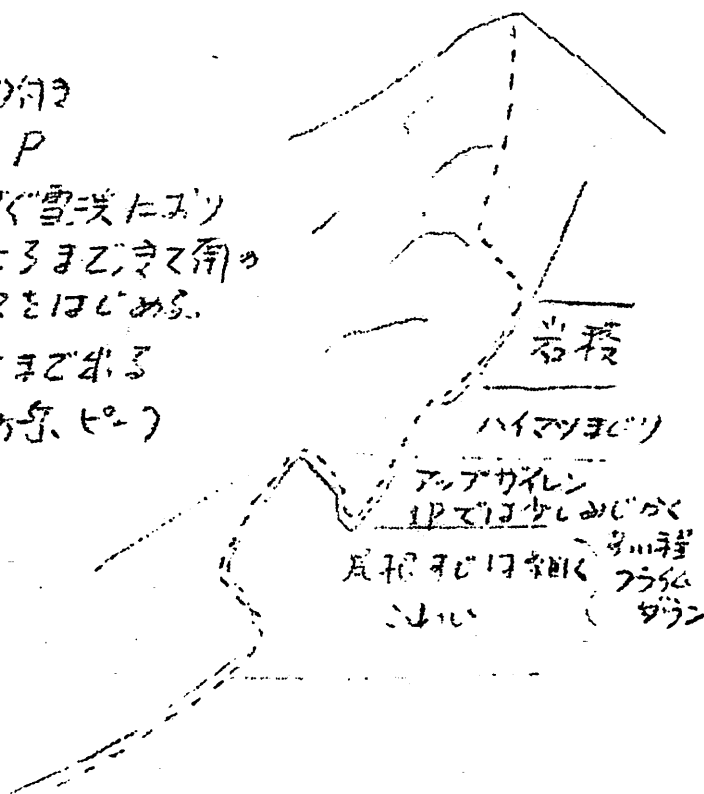
9:50 グラカ岩 P

10:50 コルから再び雪壁に寄り
らいるところまで来て南の
トラバースを始める。

11:05 槍ヶ岳北稜まで出る

12:40 白馬槍ヶ岳北稜 P

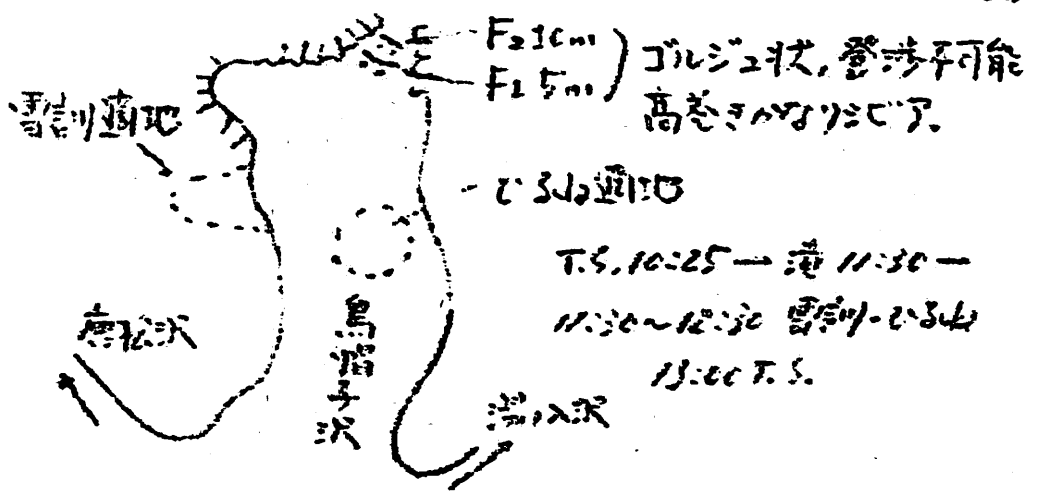
13:30 入道着



(●-●-○-○)

○鳥帽子沢探険隊

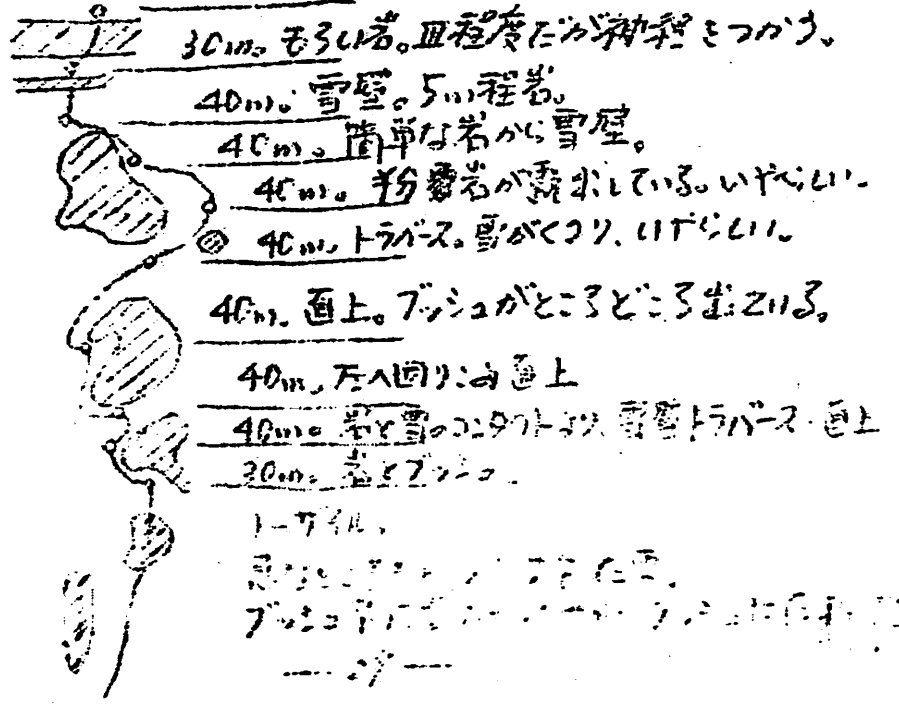
④ 澤田, 藤田 (Kのナガ-13, B.C.で④Eをめぐり)



5/3 - 5/4

○杓子C尾根 ~ 不帰三峰A尾根
Member) ④ 藤井, 田辺, 藤田

5/3 B.C. ~ 杓子C尾根 (取っつき9:00 終15:30) ~ 不帰三峰A尾根 (B.P.) (18:00)



5/4 (O) 夕刻ANE230頃(174). 田辺が呼吸数多くなり
たしいと、原因不明の症状とうたえられた。

顔がむくみ、手足がしびれ小見ることになりそう。下
山は、飲むうちには少しおさまった。夜明けを待た
朝食後登。予降キレトより予降減下降。田辺の朝
は降、おに回復いつあるようだが、おにふらついている。片
状お合て田辺とすれぬ。藤井、藤田は、三峰へ向うが、雨
もおとく、雪もないようになり途中で引きかえす。予降減
予降は予降減として十分使える。

(藤田)

○ 予降1峰尾根~予降三峰A尾根~二ノ峰セ
ソッジ

Member) ② サワダ、タカト ④ ホソカワ、ホシ

5/3 (O) 5:15 T.S. ① → 6:10 奥ニ後 → 7:35 1峰尾

根取ツキカールニビと登ったとこニカール → 7:55 凹所取岩壁の
手前、8:30 取ツキ → 11:15 1峰Peak

取ツキからは、予降減を登り、顕著な入きカールニビと尾根へ
と登る。C. ツムニのとは、3で順番待ち。ニカールカールをたどる。
(297F)

ツムニをめぐれば、あとは、軽いとこにはよく、断崖を
よれば、あとは、1峰直下まで雪積。直下はブッシュをたぐりて
登った。断崖をめぐりて4ピッチカールを使いあとは1-カ
ール。ホシは、1-2峰カールニビより下山。以後は、ホ
ソカワ、サワダ、タカトリがPartyを組む。

→ Aニビニ降 → Bニビニ降 → 13:05 ホルニビから尾根

へおにとこ → 17:15 予降 17:30 ① → dニビニ降 →

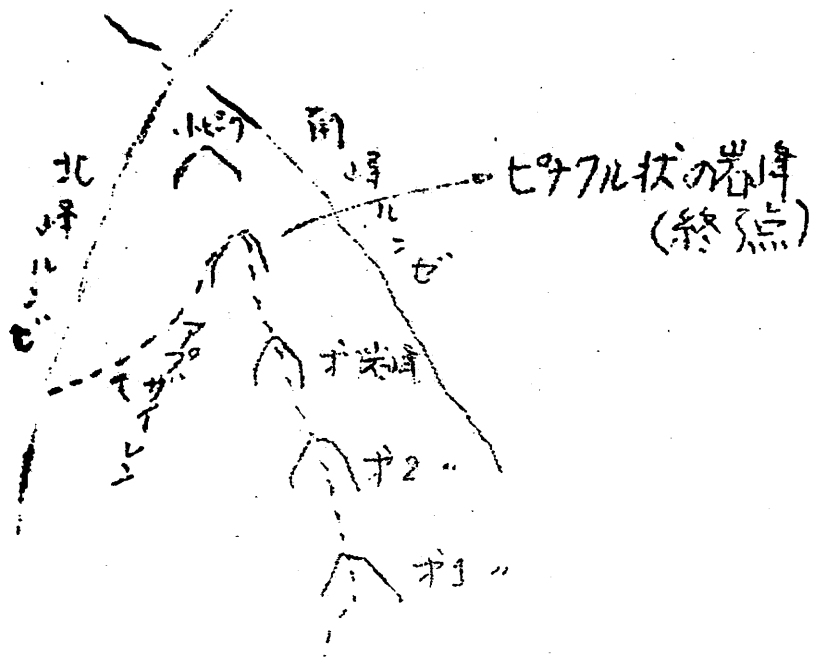
→ 18:00 = 予降 17:30 予降 B.S.

A.L = セ下降. B.L = セをつめて, 結構又カイルニセから尻根
 上りた. セからTカイルをたてる. サイルをPich使用. セの
 35 AIが3pich. 洞が核心を言えは核心. セ: 17.11カイル
 初めている. 最後のAIは右にまくことが出来る. 最後はセ
 マンをつかんで登る. B.G. はあまり遠いセとは言えないが, 不登
 22.4.11トEは5.

5/4 (0)

5:20 B.S. (8) → 6:00 取っつき → 10:30 終了 → 12:00 T.S.

マ: 5.11.11: 基本は左側から取っつき. 15分ほどとブッシュ
 ニゴの状況. 上部は行かす. 南・北峰ルニセ交点より
 北下のセカイル杖の岩峰を終了点とした. セから北方
 ルニセへ40m アカイル. 下降の端のセにはある. もう1つ
 小セをええ小セ. 交点であるが 雲もなく ブッシュニゴたけ
 2507 ため(= 北峰ルニセと下降. (ニカセリ)





春山個人山行 *

ゴールデンウィーク春山合宿報告書

昭和52年5月12日 印刷発行

発行者 信州大学山岳会® SAC®

印刷所 信州大学印刷所